

総務文教常任委員会

令和6年11月11日～11月13日

◎野崎 久雄 ○西村 邦明 西川 重則
岡本 康佑 佐藤 和雄 阿部 銀次郎
小林 誠 笹川 信子交流を通じて多様性を認め合い、
豊かな人間性を育む子ども・子育て支援複合施設
「AGECOCO」について
(埼玉県上尾市)

上尾市では、子どもたちが交流を通じて多様性を認め合い、豊かな人間性が育まれることを目的として、令和5年4月1日に、保育所・発達支援相談センター・児童発達支援センターの複合施設である「AGECOCO」を開設した。複合化により、保育所では低年齢児の受入枠を拡大し、発達支援相談センターおよび児童発達支援センターでは、気付きから専門的な療育まで、同一施設内において切れ目のない支援が可能となっている。

当施設は、リハビリ室など充実した設備が整い、施設全体をエリアごとに区切らずに一体感のある造りとなっていた。園庭にはインクルーシブ遊具が設置されており、切れ目のない発達支援に加え、保育



子ども・子育て支援複合施設「AGECOCO」

所と児童発達支援センターの子どもたちとの交流保育の充実も大変印象的であった。

公民連携により、安心安全な
公共サービスを提供し続ける
公共施設マネジメントの取り組み
について(茨城県常総市)

常総市は、公民連携を積極的に取り入れ、スピード感を持って実践に特化した公共施設マネジメントを進めている。これまでに、全国で初めての試みとなるトライアル・サウンディングや公共施設マネジメント民間提案制度、保育所と小学校の複合化などを実施している。

公共施設マネジメントの取り組みは、安心、安全な公共サービスを維持し、提供し続けるため、どの自治体においても避けて通ることができない課題である。人口は今後も減り続け、少子高齢化が進むと予測される。人口の構成が変わると公共施設の使われ方やニーズも変化することが考えられる。公民連携手法を積極的に活用する常総市の取り組みを参考に、当市の公共施設の在り方や管理、活用方法について調査研究していきたい。



常総市役所（議場）

新たな学びの場を設置し、
社会的に自立できる力を育む
学びの多様な学校分教室
「福生市立福生第一中学校7組」
について(東京都福生市)

福生市教育委員会では、不登校の生徒が社会的に自立できる力を育んでいくために、当該生徒の状況に合った独自の教育課程を編成していく新たな学びの場として福生第一中学校7組を設置している。当教室は、文部科学省認可の学びの多様な学校の分教室型であり、自分の興味、関心を持つたことややりたいことに時間をかけられる独自の時間割で学習を行っている。不登校児童生徒は全国的に増加傾向にあり、この状況は喫緊の課題である。不登校児童生徒のさらなる増加を見据え、さまざまな課題を抱える児童生徒一人一人に合わせた環境の整備が必要であると感じた。加えて、不登校となる児童生徒を生まさない、安心して楽しく通える学校づくりを進めていくことの重要性も同時に実感した。



福生市役所

市民福祉常任委員会

令和6年10月30日～11月1日

◎馬場 博文 ○藤家 貴之 山田 富義
岡田 竜一 内山 信一 武藤 元美
燕 幸男3つのセンターが連携して
在宅生活を望む高齢者等を支援
三鷹市福祉Laboどんぐり山
について(東京都三鷹市)

三鷹市福祉Laboどんぐり山は、在宅医療・介護の推進拠点として令和5年12月に開設され、在宅生活を望む高齢者とその家族、市内介護事業者等を支援している。在宅医療・介護研究センターでは、首都圏という立地も奏功し、さまざまな企業、大学等との連携の下、新しい技術を活用した研究を行っている。

介護人材育成センターでは、超高齢社会に求められる人材を育成するため、医師会や介護事業者との協働で作成したカリキュラムによる研修などを実施している。生活リハビリセンターでは、自宅に近い環境で生活しながら在宅生活における課題の解決を図るショートステイ事業などを実施している。

3つのセンターが同居していることで連携が容易になり、相乗効果が生まれていると感じた。



三鷹市福祉Laboどんぐり山

多様な障がいに対応した
公民館事業を実施
公民館における障がい者への
生涯学習支援について
(神奈川県綾瀬市)

綾瀬市立中央公民館は、障がい者への生涯学習支援が評価され、文部科学省による令和5年度の優良公民館表彰において優秀館に選出された。

社会的包摂の実現に取り組むという運営方針の下、聴覚障がい者も同時に情報が得られる体制を整備した講演会、発達障がい児を対象とした講座などを開催している。

これらの事業は、障がい者への学習機会の提供にとどまらず、新たなサークルの設立、手話サークルへの加入者増加など、交流や活動の促進にもつながっている。

参加者アンケートで寄せられた意見を踏まえて講座等を企画しているとのこと、三条市でも障がい者のニーズを調査し、気軽に参加できる事業を実施することが必要だと感じた。



綾瀬市役所

催、エネルギー関連補助事業の実施といった普及啓発事業まで、多角的に取り組むを展開しており、令和3年11月にはゼロカーボンシティ宣言を行った。

いかにして市民の行動変容につなげるかが課題とのことで、身近な問題である熱中症対策を切り口に気候変動への理解を促進するイベントを開催したり、脱炭素アドバイザーの資格を取得した職員が市民に向けて情報を発信するなどにより、意識の醸成を図っている。

三条市でも、ゼロカーボンシティ宣言を行うかは別として、気候変動の影響が深刻化している今、脱炭素社会の実現に向けた啓発は推進すべきだと感じた。



豊橋市役所（議場）

経済建設常任委員会

令和6年11月13日～11月15日

◎白鳥 賢 ○坂井 良永 酒井 竹山 嘉一 武石 栄二 森山 昭健
長橋 一弘観光資源を生かして企業を誘致
ワーケーションの取り組み
について(和歌山県白浜町)

白浜町は政府や和歌山県、大手企業の協力を得て、ワーケーションに対応したサテライト・オフィスやビジネスパーソンの誘致を行っている。情報技術の普及によってテレワークの範囲が広がった上、南紀白浜

空港から首都圏を簡単に往復できる立地を生かしている。

近年は、大手IT企業の進出から多くの企業が誘致されたこともあり、観光業の稼働率にも良い影響が出ており、南紀白浜の観光資源を大いに活用した戦略が功を奏している。

最終目的は移住者の獲得のようだが、全国的な人口減少が足を引っ張っている。目的達成に向けてどこまで振り切れるかは今後の政策に懸かっていると感じた。



白浜町役場

南高梅を世界に発信する地域力
みなべ・田辺の梅システムに
ついて(和歌山県田辺市)

みなべ・田辺地域は、日本一の梅の生産地。みなべ・田辺の梅システムは、養分に乏しく崩れやすい斜面を活用しながら高品質な梅を持続的に生産してきた農業システムであり、平成27年に世界農業遺産に認定されている。

生産者や各種団体、専門家が連携し、南高梅を日本一のブランドとして育てるだけではなく、世界農業遺産として観光資源にまで発展させている地域力は素晴らしい。しかし、生産者の減少や、気候変



田辺市役所（議場）

動による収量への影響が懸案事項となっている。

それでも、南高梅ブランドを維持するために各業界が目標を一つに取り組んでいる偉大な産地は、複合経営に磨きをかけ、世界農業遺産を守ってゆくのだらうと感じられた。

持続可能で魅力あふれる
コンパクトなまちづくり
官民連携による稼げる
空間リノベーションについて
(和歌山県和歌山市)

和歌山市は中心市街地の空洞化が課題となっていた中、まちなかへの大学誘致や公共施設の再編、リノベーションスクール（まちなかの再生を前提とした創業塾）などを実施し、にぎわいの創出やコンパクトなまちづくりに取り組んでいる。

市が大きなプロジェクトを進め、まちなかの再開発を主導しており、まちなかの子育て世帯が増加するとともに、路線価も上昇傾向であるなど、取り組みの成果が現れている。再開発には民間資本が重要な役割を果たすが、現代においてもまちは政策で活力を取り戻すことができるのだと希望が持てた。

中心市街地はまちの歴史そのもの。市民と職員の志が伴えばまちは必ず生き返る。反省と勇気の入り混じる良い研修だった。



和歌山市役所